



Po-119 演題名:透明化手法を用いた脊髓リンパ管様構造の解析
演者: 浜田医科大学 整形外科, 北沢医科大学 解剖学研究所
中井 龍一, 松山 幸弘, 山岸 寛

Po-120 Lewisラット脊柱管径と脊髄径の成長曲線:慢性圧迫性脊髄症モデル作成の至適週齢
北海道大学大学院医学研究院 整形外科学分野
五月女 慧人, 角家 健, 岩崎 倫政

背景
脊髄神経根は脊髄管内を走行しているが、近年その構造が注目され、注目を浴びている。脊髄神経根は脊髄管内を走行しているが、近年その構造が注目され、注目を浴びている。脊髄神経根は脊髄管内を走行しているが、近年その構造が注目され、注目を浴びている。

結果
透明化手法を用いた脊髄神経根の観察により、脊髄神経根の構造が明らかになった。透明化手法を用いた脊髄神経根の観察により、脊髄神経根の構造が明らかになった。

考察・結論
透明化手法を用いた脊髄神経根の観察により、脊髄神経根の構造が明らかになった。透明化手法を用いた脊髄神経根の観察により、脊髄神経根の構造が明らかになった。

超音波動画の拍動のMaterial
超音波動画の拍動のMaterial

超音波動画の拍動のMaterial
超音波動画の拍動のMaterial

Po-173 首下がり症候群患者の前方注視障害と身体機能の関連

菅川達也¹⁾、石井賢²⁾、浦田雅之介³⁾、鈴木伸文⁴⁾、平井美斗⁴⁾
¹⁾ 医療技術情報センター 職員室、²⁾ 若菜通、³⁾ 船架通、⁴⁾ 船架通

【背景】
 首下がり症候群(Dropped head syndrome)は、頭部特異的な筋力不足や筋萎縮によって起こる首の筋力低下症候群で、日常生活に大きな影響を与える。首の筋力低下は、前方注視障害や姿勢障害を引き起こす可能性がある。

【目的】
 首下がり症候群患者の前方注視障害と身体機能の関連を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

【方法】
 2019年1月～2021年9月に実施された。対象者は、首下がり症候群と診断された患者であり、前方注視障害と身体機能を評価した。

【結果】
 前方注視障害と身体機能の関連を示す結果を得た。前方注視障害と身体機能の関連を示す結果を得た。

【考察】
 首下がり症候群患者の前方注視障害と身体機能の関連を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

【結論】
 首下がり症候群患者の前方注視障害と身体機能の関連を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

Po-174 成人脊柱変形患者と住核検診受診者の座位一立位立ち上がり動作解析

高橋敏夫、大塚順、高谷由希、藤野拓、橋本秀典、大工橋三郎、西田一、渡邊浩、中野雅一、清田和彦、船架通大工学部

目的
 60歳以上の成人脊柱変形患者(ASD)と地域検診受診者(TDCK)の立ち上がり動作をマーカーレスモーションキャプチャシステムを使用して解析し、ASD患者の立ち上がり動作の特徴について検討すること。

対象
 成人脊柱変形患者 37名 (ASD group)
 地域検診受診者 29名 (TDCK study group)

定義
 実験室: 重心前方移動距離、立ち上がり時間
 実験場: 重心前方移動距離、立ち上がり時間

結果
 ASD患者は立ち上がり動作において、TDCK患者と比較して、立ち上がり時間が長いという特徴がある。

X線パラメータ
 ASD患者は、腰椎の曲がり具合が大きいという特徴がある。

考察
 ASD患者の立ち上がり動作の特徴を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

結論
 ASD患者の立ち上がり動作の特徴を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

Po-175 単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の検討:三次元動作計測との比較

野村秀樹、江崎聖裕、三浦基俊、朝田智之、船山 謙、篠原 正雄

背景
 成人脊柱変形患者の歩行時における脊椎アライメントの推定は、歩行時の姿勢解析において重要な役割を果たしている。単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度を評価し、三次元動作計測との比較を行う。

目的
 単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度を評価し、三次元動作計測との比較を行う。

方法
 歩行時の脊椎アライメントを単一ビデオカメラ映像と三次元動作計測装置を用いて測定し、その精度を比較した。

結果
 単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度は、三次元動作計測装置を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度とほぼ同等であった。

考察
 単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度は、三次元動作計測装置を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度とほぼ同等であった。

結論
 単一ビデオカメラ映像を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度は、三次元動作計測装置を用いた歩行時脊椎アライメント推定の精度とほぼ同等であった。

Po-176 首下がり症候群に対する運動療法の効果

高橋敏夫、大塚順、高谷由希、藤野拓、橋本秀典、大工橋三郎、西田一、渡邊浩、中野雅一、清田和彦、船架通大工学部

背景
 首下がり症候群患者の歩行時の姿勢解析において重要な役割を果たしている。運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

目的
 運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

方法
 運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

結果
 運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

考察
 運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

結論
 運動療法による首下がり症候群患者の歩行時姿勢解析の結果を評価し、治療に役立つ情報を提供する。

Po-177 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失

高橋敏夫、大塚順、高谷由希、藤野拓、橋本秀典、大工橋三郎、西田一、渡邊浩、中野雅一、清田和彦、船架通大工学部

背景
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失は、高齢者に多い脊髄疾患の一つである。この疾患の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

目的
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

方法
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

結果
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

考察
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

結論
 下位胸椎黄色脊髄骨髄消失の病態を明らかにし、治療に役立つ情報を提供する。

